

INTERVIEWING,
PHOTOGRAPHY AND
WRITING ACTIVITIES

取材撮影 活動報告



村上宏治
(写真家)
(八朔ゆかりの会 監事)
尾道市文化財保護委員
尾道ユネスコ協会事務局長

取材後記：ハッサクを訪ね歩く撮影取材・・・そこで感じた事とは、嗜好品として柑橘を見るか、柑橘に歴史の時間軸を重ねてみるかで大きく違ってきます。私はその2つの視点を大切に継続してコツコツと歩いてみたいと思います。



写真家
村上宏治
ホームページ

原稿執筆活動 「フルーツひろしま」連載

2023年1月～2024年12月
全24回 連載

初年度は、八朔の歴史・ゆかりの人物・出来事について紹介し、八朔が歴史の中でどのように認識されてきたのか、またそこから柑橘の起源についても取材の範囲を広げ、歴史の中の八朔について綴っています。

2年目は、柑橘が国内でどのように認識をされていたのかを取材・撮影・執筆をしました。九州では古来より神仏へのお供えになっていたり、紀州では江戸時代に民衆のお祭りの主役になっていたりします。それは普段私達が食べる単なる果物としての意味合いだけではなく重要な意味があったのです。(記事は当会HPへ掲載しています)



幻の柑橘『^{たくま}田熊スダチ』が、因島に存在しているか否かの調査開始。そして、^{ずくも}ゲノム解析によるDNA鑑定の準備に入りました。

高知県宿毛市名産の柑橘として、手厚く栽培・育成そして商品化されている『直七』。その名の由来は何時の日からかは定かではありませんが、宿毛にある魚屋の直七さんが魚料理、特に焼き魚に欠かせない食酢として紹介したのが始まりと言われ、古くから高知の人々に愛され大切に育てられ、地元では「酢みかん」としての稀少な果実です。その果実は明治時代の後半に、八朔同様に学術的に発表された広島県尾道市の因島田熊で発見された香酸柑橘の一種で、正式名称は「田熊スダチ」と言います。現在、広島県では栽培されておらず、高知県宿毛でのみ栽培履歴管理表を導入し、特別な圃場でのみ栽培され、「幻の柑橘」と言われています。

では現在本当に因島に、そして田熊にその田熊スダチは存在しないのだろうか、そしてまた田熊スダチを因島で復活出来ないものかと、ゆかりの会では調査を開始しました。そして様々な繋がりの中で、ついに限りなく田熊スダチであろうその木を発見しました。その立証に向けて現在ゲノム解析によるDNA鑑定の準備に入りました。因島田熊にて自然実生した柑橘は、明治の調査記録では60種以上が確認されています。その中で食用として産業として名に立っているものはハッサク・安政柑に次いで田熊スダチの三種類があったことが、聞き取り取材と文献アーカイブスにより判明しました。

継続してゆかりの会では、同様な柑橘について調査を継続して参ります。

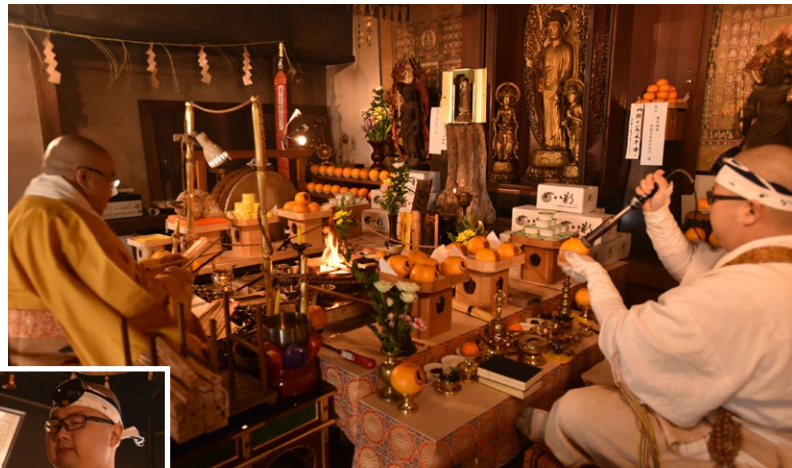


右写真は、取材時に撮影させて頂いた宿毛の直七(田熊すだち)。香りが八朔に似ています。

法要致します 先人に感謝し

第3回 八朔地蔵加持力法要 開催のお知らせ

2月1日が初朔日(はつさくじつ)であることから、繁栄を祈願して法要日と決めました。今年度も開催致しますので、どなたでも是非、足をお運びください。



八朔地蔵加持力法要の様子。八朔の原木と八朔地蔵尊の保持する自然実生の力と、菩薩のご利益をいただきます。



開催日：2月1日(初朔日)
場 所：密厳浄土寺 本堂
時 間：午後2時より(ご祈祷約1時間)
受 付：午後1時より 客殿にて

八朔ゆかりの会

八朔の歴史を明らかにしていくために、「資料収集」・「歴史調査」・「時代考証」・「取材及び撮影」を続けています。様々な資料から推測したことへの歴史的立証を確実にを行うため、専門家の方を交えて「推測」と「史実」を分けた上で、まだ明らかにされていない八朔の歴史浪漫を深めて参ります。

【現在の主な活動内容】

毎年2月1日の八朔地蔵加持力法要開催

商工会議所、加工協会、JA、
県内外産地と連携した八朔のPR

八朔関連文献の調査および研究、
資料収集、アーカイブス化



八朔ゆかりの会
ホームページQRコード

HASSAKU HISTORICAL ROMANCE

八 朔 歴 史 ロ マ ン ス

広報誌

vol.2

2025年1月発行



八朔と柑橘にまつわる
歴史の中から掘り出す
ヒューマニズムな物語

因島のほぼ中央に位置する青影山の麓には、ジャガタと呼ばれた雑柑が、たくさん自然実生していました。そこは因島田熊・密厳浄土寺の寺領で、江戸時代末頃に第15世住職・小江恵徳上人が、その中で優れた柑橘を発見したことから、物語は始まります。恵徳上人が【^{はっさく}八朔】と命名し、明治時代には世界屈指の2人の農学博士が、因島を訪れた際に八朔の優秀性を認めたことで、八朔栽培への機運が高まっていきます。昭和の時代には、田中清兵衛氏と有志達の尽力によって、全国へ普及していきました。更に田熊では安政柑や田熊スダチと命名される自然実生の柑橘が発見されます。

『柑橘の香狩り』in 因島

BOY SCOUT & CITRUS SCENT

ボーイスカウトと巡る

山知り、海知り、人を知る…
知るを楽しむシリーズ



シロギスとハッサクがコラボしたお寿司。
握り・押し寿司・ハッサクの皮を容器に見立てて
作られたチラン寿司。



福山大学による研究開発で、養殖した“びんごの姫”と呼ばれる「シロギス」と、「ハッサク」がコラボしてお寿司ができたので、その試食会へ、当会の会長・田中康貴が出席致しました。会長は、ハッサクの歴史的背景を講演致しました。



試食会

ハッサク

びんごの姫

5月12日(土)

午前 開会セレモニー
ハッサクの木・花の見学
村上宏治先生による
ハッサクの歴史のお話
(昼食)
午後 ハッサク生搾り体験
(大出ファーム様にて)
(解散)

ボーイスカウトの中でも、小学3年生～小学5年生(カブスカウト)の皆さんに、村上宏治を講師として、八朔のお話をさせて頂きました。



『柑橘大図鑑—因島の田熊生まれハッサク—』当会にて制作・発行。参加の子たちへ配布しました。(A5サイズ・20頁・フルカラー・100部)

通常総会開催

令和6年8月19日(月) 10:30より
JA尾道市 因島営農センターにて

因島南小学校との取り組み(総合学習)の進捗についての報告や、ボーイスカウトの子たちへの八朔のお話と、因島南小学校の子どもたちが描いてくれた「八朔パンフレット」も、総会で公開し、出席の皆様にご覧頂きました。子どもの皆さんが、八朔は因島の宝だと誇りに感じて皆でこれからもたくさん作っていけるようにする必要があると、共通の認識にすることが出来ました。



因島南小学校の3～4年生の子たちが、学校の授業の中で描いてくれた、八朔のパンフレットです。

全部で14枚。
現在は、密厳浄土寺客殿の八朔の原木の横に展示しています。



令和6年8月26日(月) 13:00より
JA尾道市 因島営農センターにて会議、その後、密厳浄土寺にて八朔レクチャーを開催。



因島南小学校の先生3名が出席下さり、学校で地元の特産である八朔についての授業を組み込みたいとの協力要請を頂き、当会の理事数名が昨年より交流を開始。子ども達の皆さんが、授業で八朔の知識を深めるためにどのような内容が必要か意見交換をしました。また、バザーで八朔のシロップ漬けを販売したいとのご要望などもあり、先生方のご要望に合わせた当会のスキルが活かされる会議となりました。



因島南小学校の先生と
学校での八朔授業に向けて

